

沖縄協会だより

2022.3

No.23

西村計雄 作

沖縄の桜

100号

179×147.3×6.5cm



〈制作意図〉

沖縄の桜は実に美しく明るい。本土の桜に比べて色が濃く、下向きにつつましやかにじっくり咲いている風情は沖縄の人々の優しい心根に通じ安らぎを覚える。安土桃山時代の日本画の手法を取り入れ、豊かな色彩をバツクに沖縄の桜の魅力を表現した。

西村計雄（明治42年・北海道生まれ）

東京美術学校卒、藤島武二に師事。1943年文展（現・日展）特選。戦後早稲田中学校と高等学校の教師を勤め、51年に42歳で単身渡仏する。ピカソの画商カーンワイラー氏との出会いを契機に、53年よりパリを中心にヨーロッパ各地で個展を開催。その作品は、フランス国立近代美術館やパリ市美術館に買い上げとなった。フランス芸術文化勲章、共和町立西村計雄記念美術館開館。2000年12月4日没。



沖縄協会は、沖縄が本土に復帰するまでの間、各種の援護活動を行った特殊法人南方同胞援護会（昭和31年～47年5月）の後を受けて、昭和47年9月20日に設置された内閣府所管の公益法人です。新たに設立した財団法人沖縄協会は、南方同胞援護会の実績と経験を活用して、沖縄の振興施策に積極的に協力し、平和で豊かな沖縄県の建設に寄与してまいりました。平成23年（2011）4月1日、沖縄協会は内閣総理大臣より公益財団法人として認定を受けて「公益財団法人沖縄協会」として新たな一歩を踏み出しました。これからも、沖縄県の健全な発展と幸福な社会形成に役立つ事業を行いながら、沖縄平和祈念堂を管理運営することで、平和で豊かな沖縄県の建設に貢献していきます。

第43回 沖縄研究奨励賞

受賞者研究題目の要旨とこれからの抱負

第43回沖縄研究奨励賞を受賞した自然科学部門の 小野尋子 琉球大学工学部教授、社会科学部門の 萩原真美 聖徳大学大学院教職研究科准教授に、本賞(賞状)と副賞(研究助成金50万円)が贈呈された。今回、受賞の対象になった研究題目の要旨とこれからの抱負を紹介する。

沖縄本島内駐留米軍基地跡 土地利用計画に関する一連の 地域提案型研究

小野 尋子

この度は、栄えある沖縄研究奨励賞を頂きましたこと、大変光栄に存じます。

沖縄本島中南部の大規模基地跡土地利用計画策定支援型研究は、2010年後半から、10年間続けられました。この間、沖縄県庁、宜野湾市、軍用地主会、なたてのまちベースミーティング、田芋生産組合、自治会その他の皆様とは、研究成果の報告と地域における返還跡地への将来の意向拝聴等、多くの意見交換と協議の場を設けてさせて頂きました。沖縄特有の研究課題と地域の皆様に育てられた事が今回の受賞に繋がりました。まずは関係者皆様と共同研究者の卒業生達に感謝を申し上げます。と思います。

大規模基地跡土地利用の研究は段階的に進めました。契機は2010年度に本島中南部で返還予定の複数の大規模基地の跡土地利用計画が「まるで金太郎飴のように」類似しており、今後人口減少を迎える中で需要を奪い合うのではないかとという当時の副知事の問題意識を伺ってから、土地利用計画の専

門家として研究に着手しました。嘉手納以南の約1000haの返還予定地について広域的な開発需要の整理と地権者の意向、将来的な導入機能について調査・分析をベースに提案を行いました。その後、新都心の土地利用計画の変遷や土地区画整理事業上の課題、土地区画整理事業としてみた特殊性等の完了した返還跡地での事例研究から、今後の跡土地利用計画での示唆を得るとともに、普天間飛行場を対象に返還に伴う開発で、現在の自然的土地利用から都市的土地利用に代わるにより、地下水を含む流域水収支がどの変化するか(開発により大山の湧水が枯れないために必要な湧水実態の解明と開発にあつての浸透配慮は何か)等の環境の持続性配慮にかかる研究を行いました。この研究により、今後の普天間飛行場の跡土地利用計画でも、基地に立ち入れないという制約条件の中での推定と持続性に配慮した土地利用計画の立案が可能となります。現在は西普天間住宅地を対象に、影響の事前予測解析の妥当性について検証を行っています。

今後とも返還跡地の魅力ある都市づくりに向けて、多くの人達にお力添えを頂きながら、研究に邁進していききたいと思えます。最後に公益財団法人沖縄協会の長年に渡る研究奨励活動に感謝します。

占領下沖縄の学校教育

萩原 真美

本研究は、アメリカ占領初期沖縄にとって最大の課題であった復興が、学校教育によっていかに成し遂げられたかについて、戦後教育改革の看板教科である社会科の成立過程に着目して検証したものである。

本研究を通じて明らかになったのは主に三点である。第一に、沖縄の戦闘中にも関わらず始まった、沖縄の戦後新教育の実態である。学校の再開を皮切りに、ガリ版刷り教科書の作成、教育行政の整備、教員養成機関の設置を経て、1946年4月に八・四制が施行された。だが、その2年後である1948年4月、六・三・三制の導入により廃止となった。その要因が、沖縄の深刻な教科書不足により本土の教科書輸入を以て対応した結果、学校制度・教育課程もそれに合わせたことを明らかにした。

第二に、対沖縄占領教育政策方針のなかでも、沖縄の独自性を尊重し、新たな沖縄の再建を図る「沖縄の道」が、八・四制下の人文科歴史において重点的に取り扱われたことである。ガリ版刷り教科書や教員の授業ノート等を可能な限り収集し、内容分析を行ったことで明らかとなった。

第三に、沖縄の社会科成立の特殊性である。戦前日本の国定教科書制度下では、基本的に副読本によって国定教科書に代わる内容を教えることはできなかったが、八・四制下の人文科歴史において、正規の教育課程で初めて沖縄の歴史を扱うことが実現した。社会科導入後、本土の社会科教科書に沖縄の記述が全くなかったことから、本土の教科書を正規の教科書として用いつつ、副読本を作成して沖縄の歴史を扱うことにしたのである。

アメリカによる占領開始からわずか一年という異例の速さで戦後教育を開始できたのは、当時の沖縄の人々が、教育に復興の活路を見出していた証と言えよう。今後は、仲原善忠「琉球の歴史」をはじめとした沖縄の歴史副読本およびその系譜に関する研究や、学校と軍用施設の立地の相関に関する研究等に真摯に取り組んでいきたい。



主催者挨拶

沖縄研究奨励賞は、沖縄の地域振興・学術振興に貢献する人材を発掘し、育成することを目的として実施しております。今回を含めこれまでに110件の受賞者を顕彰してまいりました。その方々は各方面で目覚ましい活躍をなされており、当協会におきましても誠に嬉しい限りです。

本年度の沖縄研究奨励賞には、全国から20件の候補者の推薦応募が寄せられました。この中から見事に受賞されましたのが、小野尋子(おのひろこ)さん、萩原真美(はぎわら まみ)さんです。小野さん、萩原さんのご研究は、いずれも長年に亘る地道で丹念な調査と、理論的かつ緻密な分析を踏まえた優れた内容であり、沖縄という枠を超えて、日本国内はもとよりアジア諸国、さらに世界に通用する内容であります。

小野さん、萩原さん、沖縄研究奨励賞の受賞、誠にめでとうございます。お二人には、これを契機に、今後とも、後進の指導、沖縄の学術文化の振興、そして、地域発展のために、貢献されることを願ってやみません。

今回惜しくも受賞に至らなかった研究の中にも、受賞に十分に値する研究が含まれていた

との報告を受けております。これからの沖縄の発展を支える人材の豊富さを心強く感じます。

結びに、この度の沖縄研究奨励賞の応募にご協力賜りました推薦者、大学、試験研究機関、報道機関、並びに選考に当たられました選考委員の先生方をはじめ関係各位に対して、衷心より御礼申し上げます。誠にありがとうございます。

今後とも、当協会の「沖縄研究奨励賞」事業に対して、変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。主催者の挨拶といたします。

公益財団法人沖縄協会
代表理事 上原良幸

祝辞 沖縄県知事

第43回(令和3年度)沖縄研究奨励賞 祝辞

はいさい ぐすーよー ちゅうーがなびら

第43回沖縄研究奨励賞を受賞されました、小野尋子様、萩原真美様、誠にめでとうございます。

小野様の「沖縄本島内駐留米軍基地跡地利用計画に関する一連の地域提案型研究」では、米軍基地の跡地における都市計画という特殊なテーマを丹念に調査、考察されており、本研究は沖縄振興に対する貢献度が大きいと評価されてお

ります。

萩原様の「占領下沖縄の学校教育」では、戦後初期の沖縄の教育制度の過程を膨大な資料の収集と解析によって実証的に明らかにしており、沖縄県の戦後教育史研究の前進につながると評価されております。

お二方の研究は、本県にとりまして重要なものであり、その研究に対する熱意に対し深く敬意を表しますとともに、研究の一層の深化を心から期待しております。

さて、公益財団法人沖縄協会におかれましては、昭和54年に本奨励賞を創設され、沖縄の地域振興及び学術振興に貢献する人材を発掘、育成することを目的に、これまで100名を超える研究者を表彰されてきました。

昨年6月まで会長を務めておられた故・野村一成前会長をはじめ、ご関係者の皆様には、沖縄を対象とした幅広い分野の学術振興に御尽力いただいておりますことに、心から感謝を申し上げます。

また、沖縄協会の前身である南方同胞援護会は、祖国復帰に向けた対米交渉や戦没者遺族への援護事業、さらには青少年等諸団体の本土・沖縄間の交流を促進し、沖縄の祖国復帰・地域振興等に多大なる御尽力をいただきました。

このような精神が公益財団法人沖縄協会に引き継がれ、本日

の沖縄研究奨励賞につながっていることに、敬意を表しますとともに、重ねて感謝を申し上げます。

本年、沖縄県は祖国復帰から50周年という節目の年を迎えました。祖国復帰に至るまで、またその後の50年は公益財団法人沖縄協会の皆様を始め、多くの方々の御支援と県民の努力により築かれたものであります。

沖縄県は、また新たな一歩を力強く踏み出して参りますので、皆さまにおかれましては、引き続き本県の発展に御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、受賞者をはじめ、関係者の皆様のますますの御健勝と、御活躍を祈念申し上げます、お祝いの言葉といたします。

令和4年1月19日

沖縄県知事 玉城デニー

【本賞表 琉球漆塗り、螺鈿を駆使している。】



【本賞 紅型、手漉き和紙(月桃紙)を駆使している。】



沖縄青少年勉学支援制度 について

この制度は、本土（沖縄県以外の都道府県）で働きながら学ぶ沖縄青少年を支援し奨励するため、1973年に設置されました。この制度に賛同いただいた沖縄出身者を含め多くの方々からの温かい寄附金でつくられた「働きながら学ぶ沖縄青少年支援基金」の運用により勉学支援金を給付し、これまで延べ1153人の働きながら学ぶ青少年が支援を受け、習得した資格や技術を活かしてそれぞれの進路を歩んでいます。

制度発足当初は、「沖縄青少年相談相手」と呼ばれるボランティアの方々のご協力により事業を実施していました。東京、川崎、鶴見、愛知、大阪、兵庫各地に相談連絡会があり、経済的な支援だけでなく、異境にあつての彼らの悩みをきき、良き相談相手となつて沖縄青少年の心の支えとなっていました。その主な職務は、悩みを持つ青少年の求めに応じて適切な相談助言を行い、青少年の雇用主から要請があつたときは、その相談に応じ、相談の結果によっては関係機関に連絡、紹介、斡旋などを行う等。支援金の支給方法も現在とは異なり、相談相手から現金を手渡ししていました。第1号支援金給付該当者が「私より

困っている人がいるのではないでしようか。このお金は、そんな人が使った方がいいのではないでしようか。」と言つて支援金をすぐには受け取らうとせず、相談相手の方が苦労されたという記録が残っています。時代は昭和から令和へと移り、インターネットの普及などによつて青少年の生活様式は大きく変化しましたが、「働きながら学ぶ沖縄青少年支援基金」にご寄附をお寄せ下さつた皆さま、沖縄青少年相談相手としてご尽力いただいた皆さまの郷里の後輩たちを応援する思いは変わることがありません。感謝の気持ちを忘れずに、この事業の充実につとめて参りたいと存じます。

★2022年度沖縄青少年勉学

支援生募集

2022年度の沖縄青少年勉学支援生の応募は、4月1日から6月30日まで。当日消印有効。勉学支援を希望される方は、本会ホームページで申請書をダウンロードし、必要事項を記入のうえ必要書類（在職証明書・在学証明書）を添付して郵送して下さい。7月に行われる審査委員会において、当該年度の勉学支援生を決定します。

【申請書の送付先】

〒103-0001

東京都中央区日本橋小伝馬町17-16

シエスタ日本橋201

（公財）沖縄協会沖縄青少年勉学支援担当宛

★沖縄平和祈念堂

改修工事に伴う ご寄付のお願い

開堂から44年を迎えた沖縄平和祈念堂では、現在、経年劣化による改修工事を頻繁に実施しております。今後、さらに工事の必要が考えられますので、多くの皆様に諸経費に対するご寄付を賜りますようお願い申し上げます。

※詳細は「公益財団法人沖縄協会のホームページより



感染防止対策 徹底宣言



沖縄平和祈念堂
新型コロナウイルス感染症拡大予防
ガイドラインを遵守しています。



沖縄平和祈念堂では、沖縄県が作成した「新型コロナウイルス感染症感染防止対策チェックシート」を実施し、感染防止徹底対策宣言ステッカーを取得しています。

沖縄平和祈念堂美術館

沖縄出身画家 紹介・12

山元恵一（大正2年生・沖縄県生）

東京美術学校（現東京芸術大学）油絵科卒。昭和23年石川・東恩納より首里ニシムイに転居、29年モダンアート展（東京都美術館）入選、31年沖縄美術家連盟結成・第1回展（琉米文化会館）出品、36年沖縄タイムス紙の船越義彰作・連載新聞小説「清化風雲録」に挿絵掲載、46年琉球大学美術工芸科教授、48年第7回沖縄タイムス芸術選賞大賞受賞、49年個展（沖縄物産センター画廊）『魚』『化石した卵』等出品、53年遺作展（沖縄県立博物館）、56年沖縄作家五人遺作展（沖縄平和祈念堂美術館）『貴方愛する時と憎む時』『島のうた』等展示、平成7年戦後文化の軌跡1945-1995（目黒区美術館）『貴方愛する時と憎む時』展示、広島市現代美術館、兵庫県立近代美術館、福岡県立美術館巡回。昭和52年没。

額サイズ：縦×横×厚【79.7×97.8×5】号数：F30（平成19年12月13日寄贈）

山元恵一作 花粉

